

東京外国語大学における研究データ管理に関するアンケート（まとめ）

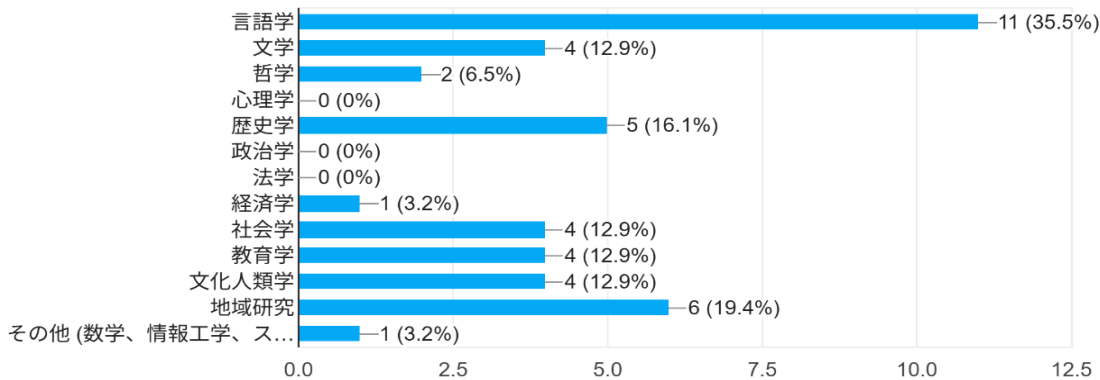
学術データ管理・利活用WG

調査期間 2026（令和8）年2月24日（火）～3月20日（金）
 調査方法 Google フォーム (<https://forms.gle/5iSR8SDuZacTU5gN7>)
 設問数 13 問
 回答数 31名（総数393名のうち8%）
 所属別回答数

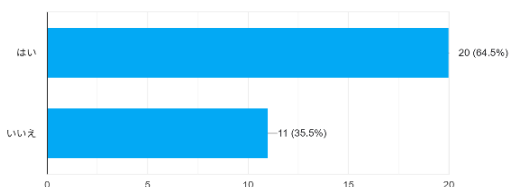
所属	回答数
大学院総合国際学研究院	11
世界言語社会教育センター	8
アジア・アフリカ言語文化研究所	5
国際日本学研究院	4
総合国際学研究院	3
合計	31

分野 ※複数分野にまたがる場合は主たる研究分野をご回答ください。

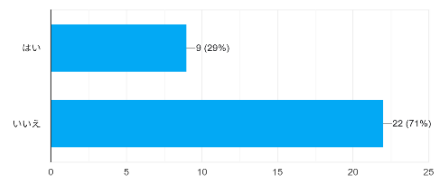
31 件の回答



Q1.
 学術機関による研究データ管理について、別紙で述べたような国内外の動向を知っていましたか？
 31 件の回答



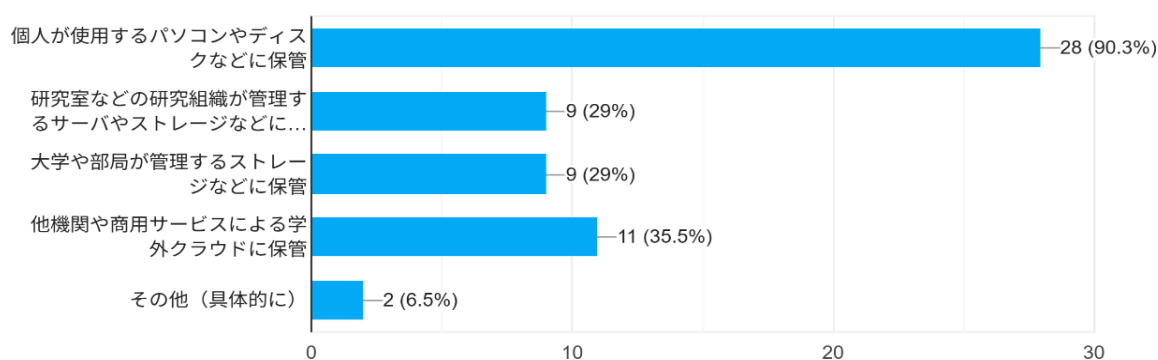
Q2.
 東京外国語大学の研究データ保存についての規程...年間」と定められていることを知っていますか？
 31 件の回答



学術機関における研究データ管理をめぐる国内外の動向については、「知っていた」と回答した者が20名（64.5%）であり、一定程度の認知が確認された。一方で、「知らなかった」とする回答も11名（35.5%）あり、教員間で理解度に差があることが示された。これに対し、本学における研究データ保存に関する規程（研究資料等の保存期間を論文等の発表後10年間とする方針）の認知状況については、「知っている」が9名（29%）にとどまり、「知らない」が22名（71%）と過半数を占めた。このことから、学内ルールの周知が十分に行き届いていない実態が明らかとなった。

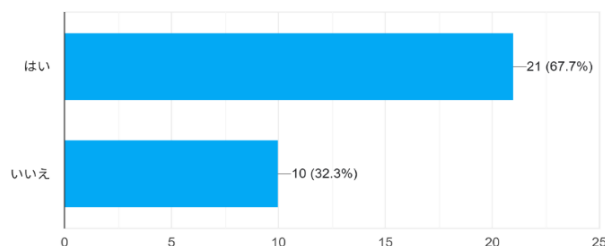
Q3. 収集・作成した研究データをどのように保管していますか？(複数選択可)

31件の回答



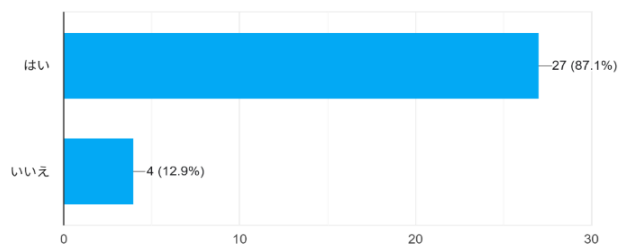
Q4. 収集・作成した研究データのバックアップを定期的にとっていますか？

31件の回答



Q5. 過去10年以内に公表した論文の根拠データにすべてアクセスできますか？

31件の回答



研究データの保管方法については（複数回答）、「個人が使用するパソコンや外部記憶媒体」に保管していると回答した者が28名（90.3%）と圧倒的多数を占めた。これに次いで、「他機関や商用サービスによる学外クラウド」が11名（35.5%）、「研究室等の研究組織が管理するサーバ・ストレージ」が9名（29%）、「大学・部局が管理するストレージ」が9名（29%）であった。

この結果から、研究データ管理は個人単位に大きく依存しており、大学組織としての一元的な管理体制は限定的であることがうかがえる。

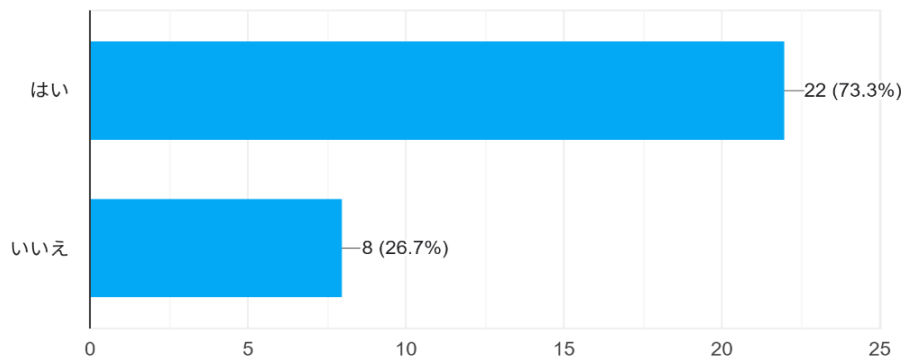
また、研究データのバックアップを定期的に行っているかについては、「行っている」が21名（67.7%）であった一方、「行っていない」が10名（32.3%）存在した。一定数の教員において、データ消失リスクを抱えた運用が行われていることが示唆される。

過去10年以内に公表した論文の根拠データへのアクセス状況については、「すべてにアクセスできる」と回答した者が27名（87.1%）であった。一方、「すべてにはアクセスできない」との回答も10名（32.3%）存在し、長期的な研究データ保存・管理の観点から課題があることが明らかとなった。

Q6.

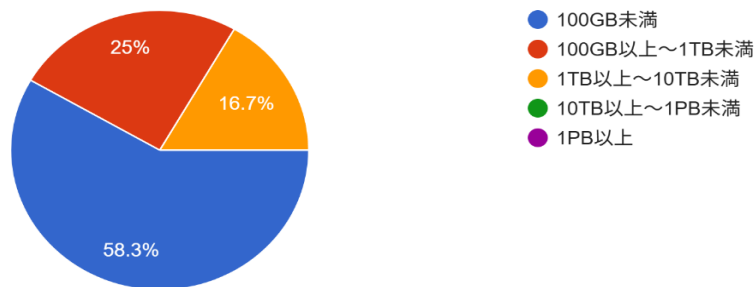
研究データ管理のための環境が本学で整備された...その環境で保管したい研究データはありますか？

30 件の回答



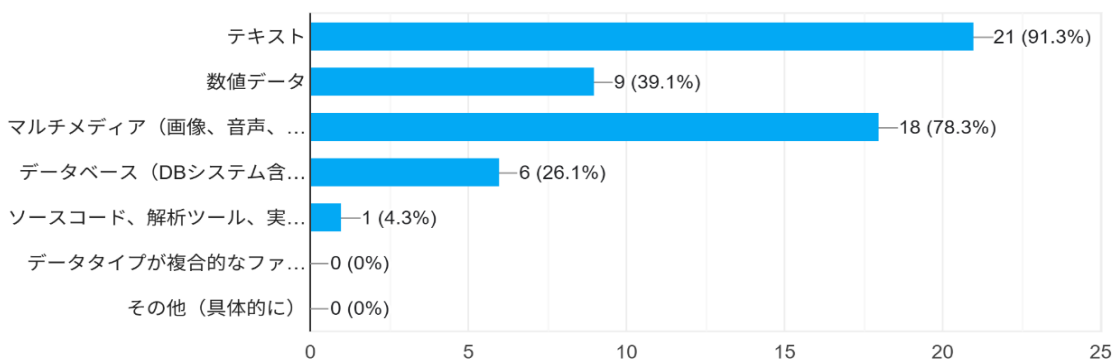
Q6-1. 保管したい研究データの規模はどの程度ですか？（Q6で「はい」の場合）

24 件の回答



Q6-2. 保管したいデータのタイプをご記入ください。（複数選択可/Q6で「はい」の場合）

23 件の回答



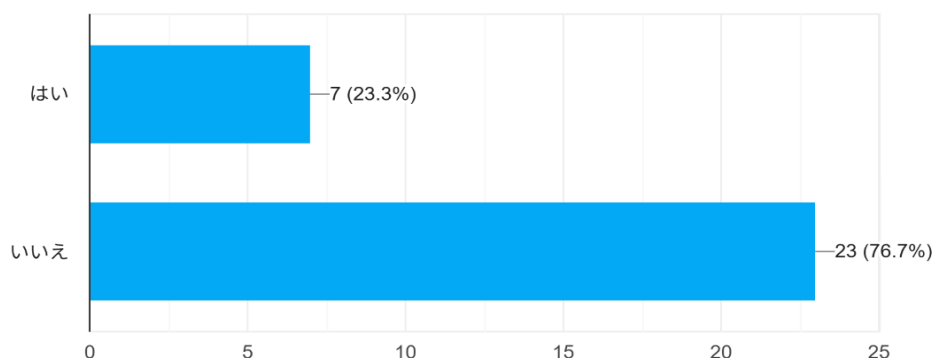
大学が研究データ管理のための環境を整備した場合、その環境で保管したい研究データが「ある」と回答した者は22名（73.3%）であり、全体の約3分の2が大学提供の管理基盤の利用に前向きであることが示された。

保管したい研究データの規模について（該当者22名）は、「100GB未満」が58.3%、「100GB以上～1TB未満」が25%、「1TB以上～10TB未満」が16.7%であった。比較的小規模なデータが中心であるものの、一定数の教員は大容量データの保管を想定している。

Q7.

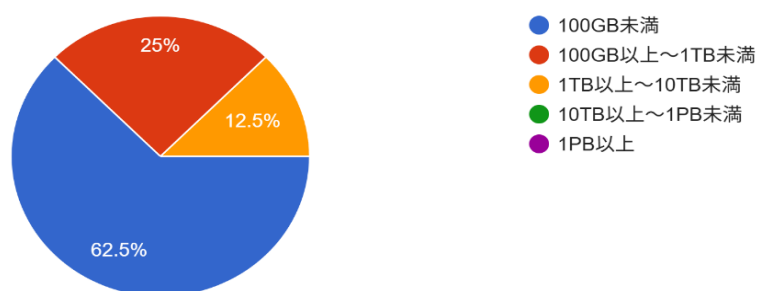
これまでに収集・作成した研究データのうち、現...があれば、公開可能な研究データはありますか？

30 件の回答



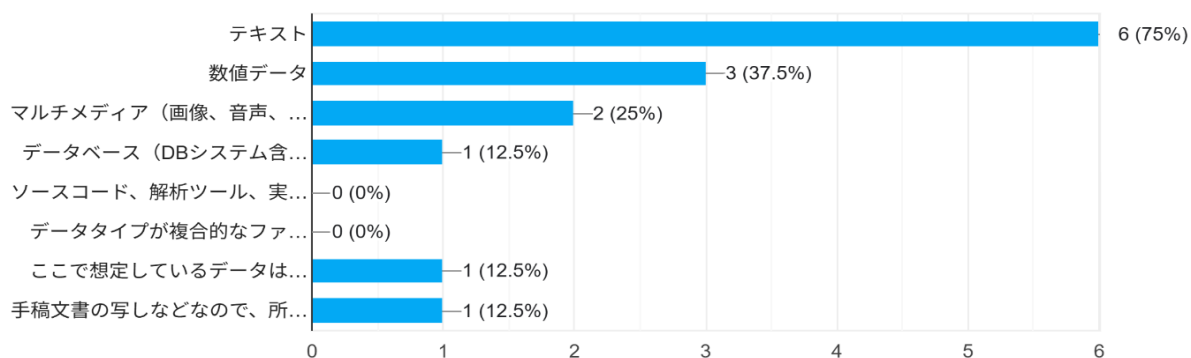
Q7-1. 公開可能な研究データの規模はどの程度ですか？（Q7で「はい」の場合）

8 件の回答



Q7-2. 公開可能なデータのタイプをご記入ください。（複数選択可/Q7で「はい」の場合）

8 件の回答



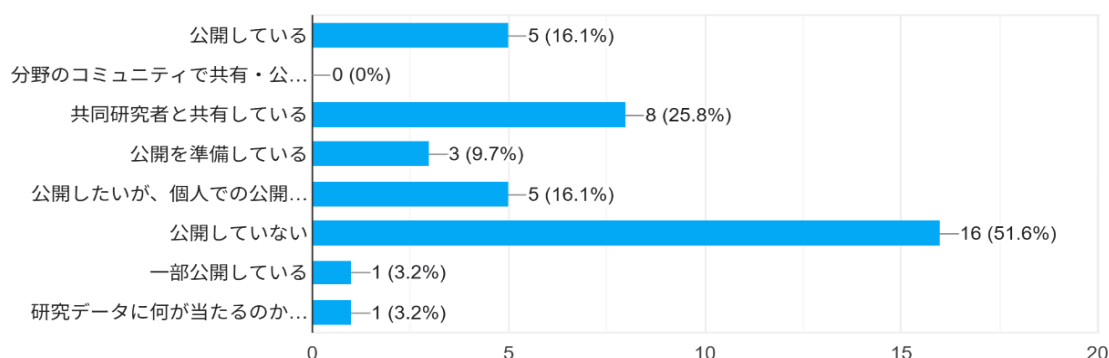
Q7-3. 差し支えなければ、公開可能なデータの内容を記述下さい。（Q7で「はい」の場合）

コーパス、辞書
調査協力者へのインタビューのテキスト
フィールドワークで収集した音声データ
学習者のリフレクション内容とその分析結果（カテゴリやタグ）
インタビュー調査の内容

Q8. これまでに収集・作成した研究データを既に公開または共有していますか？

当てはまるものをすべて選んでください。

31件の回答



現在は公開していないものの、大学が整備する環境があれば公開可能な研究データが「ある」と回答した者は7名（23.3%）であった。一方、「ない」と回答した者は23名（76.7%）であり、公開可能性については慎重な姿勢が多数派である。

実際の研究データの公開・共有状況（複数回答）を見ると、「公開している」、「一部公開している」、「公開を準備している」が9名（29%）にとどまった。一方で、「共同研究者と共有している」は8名（25.8%）、「公開していない」は16名（51.6%）であり、限定的共有や非公開が一般的であることがわかる。また、「公開したいが個人では困難」とする回答も5名（16.1%）あり、支援体制の必要性が示された。

Q9 研究データの公開状況について

Q8を「公開している」と回答したもののうち、具体的には以下のものが挙げられた。

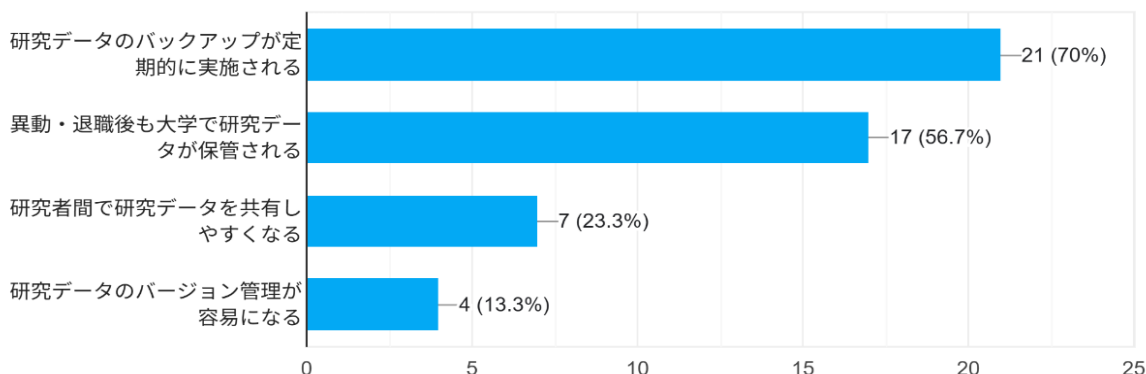
コンテンツ・リソース名	URL	対象	プラットフォーム
Kachin folktales told in Jinghpaw/Kachin Folktale	https://catalog.paradisec.org.au/repository/KKI https://tufs.repo.nii.ac.jp/search?page=1&size=50&sort=custom_sort&search_type=0&q=&creator=Kachin%20rature%20Project	データ本体とメタデータ	本学の機関リポジトリ，他大学・機関のリポジトリ
教科書として出版（動画はyoutubeで公開）			
日本・韓国・台湾の大学生による日本語意見文データベース	https://www.tufs.ac.jp/ts/personal/ijuin/terms.html	データ本体とメタデータ	本学（もしくは本学各部署）が管理するサーバ
清文彙書	https://tufs.repo.nii.ac.jp/records/2000119	データ本体とメタデータ	本学の機関リポジトリ，本学（もしくは本学各部署）が管理するサーバ

Q10はQ8で「分野のコミュニティで共有・公開している」と回答した場合の設定問となり、Q8が回答数0だったため回答なし

Q11.

(個人や研究室等による管理ではなく、) 大学組織...(最も当てはまるものを1つ選んでください。)

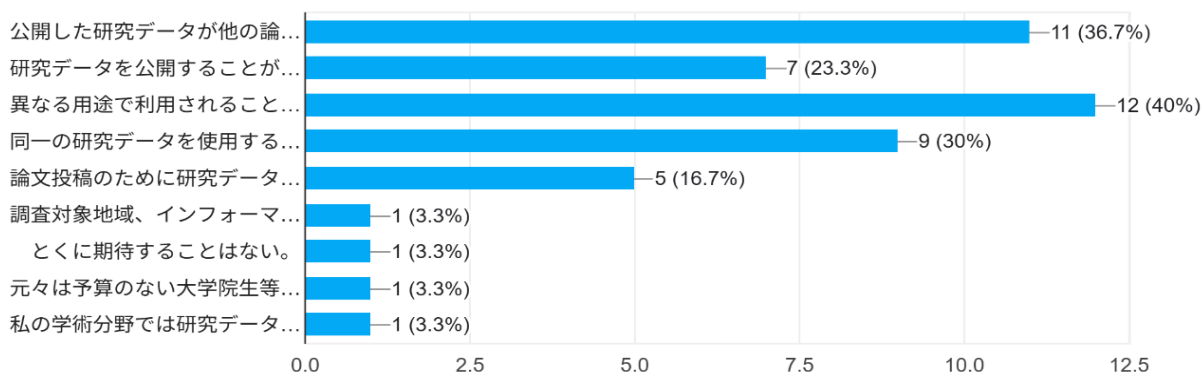
30件の回答



Q12.

研究データを積極的に公開する場合、何に期待しま...(最も当てはまるものを1つ選んでください。)

30件の回答



Q13. 本学における研究データ管理・公開についてご意見があればご記入ください。(自由記述)

人間や社会に関わるフィールド調査に基づく研究を行っているので、データの公開には倫理的な問題が必ずある。また、当該社会についての文脈なしでデータを公開しても、他の研究者がそれを持ちいることは困難だと思う。そういうこともあって、同じ調査地を共有しているとか、研究目的を共有する共同研究者との間でデータを共有している。

研究データの管理や公開に関しては、分野により収集されるデータの性質が異なるので、その点について慎重に対応すべきだと思います。文化人類学の場合、参与観察やインタビュー、写真、場合によってはビデオが主なデータとなりますが、それらはインフォーマントとの同意のうえで収集されるものです。インタビューには個人情報を含めてセンシティブな情報も含まれ、それを当事者と慎重に確認したうえで、論文や学術書に使用し、その結果を更に当事者に通知しています。このように慎重な取り扱いを要するデータを公開するというのはデータやそもそもの研究の性質上不向きです。大学で研究データ管理のスペースが提供されるのはデータの管理上は望ましいですが、自分の研究の場合は、共有は想定していません。

リポジトリに論文だけではなく音声などのデータが登録されるようになってきたが、検索して探せるものの、表示されるページが見にくくわかりにくいと感じます。

大学組織が整備した環境で研究データを管理する場合に期待する点（複数回答）としては、「研究データのバックアップが定期的実施される」が21名（70%）と最も多く、次いで「異動・退職後も大学でデータが保管される」が17名（56.7%）だった。

また、研究データを積極的に公開する場合に期待する効果としては、「異なる用途で利用されることで新たな価値が付加される」が12名（40%）「他の論文から引用される」が11名（36.7%）、「同一データを利用する研究コミュニティが拡大する」が9名（30%）、「大学や部局による個人評価につながる」が7名（23.3%）であった。自由記述では、個人情報や研究倫理、フィールド調査協力者への配慮等を理由に、研究データ公開には慎重な対応が求められるとの意見が多く見られた。

まとめ

アンケート調査から以下の点が分かった。

- ・研究データ管理は多くの所属で個人管理に依存している
- ・学内規程の認知度は全体的に低い
- ・公開に対しては分野特性や倫理的条件を強く意識している

一方で、

- ・フィールドワーク中心の所属では公開に慎重な一方、管理基盤への期待は高い
- ・教育・言語系の所属では、公開意欲はあるが個人対応の限界が課題
- ・分野によって想定されるデータ規模や公開可能性が大きく異なる

といった相違も明確となった。